

注 意 報

農技セ第5507号
令和元年6月25日

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和元年度農作物病害虫発生予察情報について

令和元年度農作物病害虫発生予察注意報第2号を発売したので送付します。

令和元年度病害虫発生予察注意報第2号

令和元年6月25日
徳 島 県

サツマイモ栽培地帯において、6月第3半旬から第4半旬のフェロモントラップ定点調査で、シロイチモジヨトウの雄成虫誘殺数が平年に比べて多く推移していることから、今後、サツマイモで幼虫による被害の拡大が予想されるので、注意報を発売します。

現地においては発生状況に注意し、適切な防除指導をお願いします。

作物名：サツマイモ
病害虫名：シロイチモジヨトウ

- 1.発生地域 県北東部のサツマイモ栽培地帯
- 2.発生時期 6月下旬～
- 3.発生程度 多(前年より多い, 平年より多い)

4.注意報発令の根拠

- (1)フェロモントラップ定点調査(サツマイモ栽培地帯4地点)において、6月第3半旬より誘殺数が急激に増加し、6月第3半旬から第4半旬の誘殺数は313頭と平年(79頭)の約4倍となった(図1)。
- (2)6月24日に実施したフェロモントラップ周辺4圃場の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、寄生葉率が1.0%であった。
- (3)高松地方气象台が6月20日に発表した1か月予報では、気温は平年並みか低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

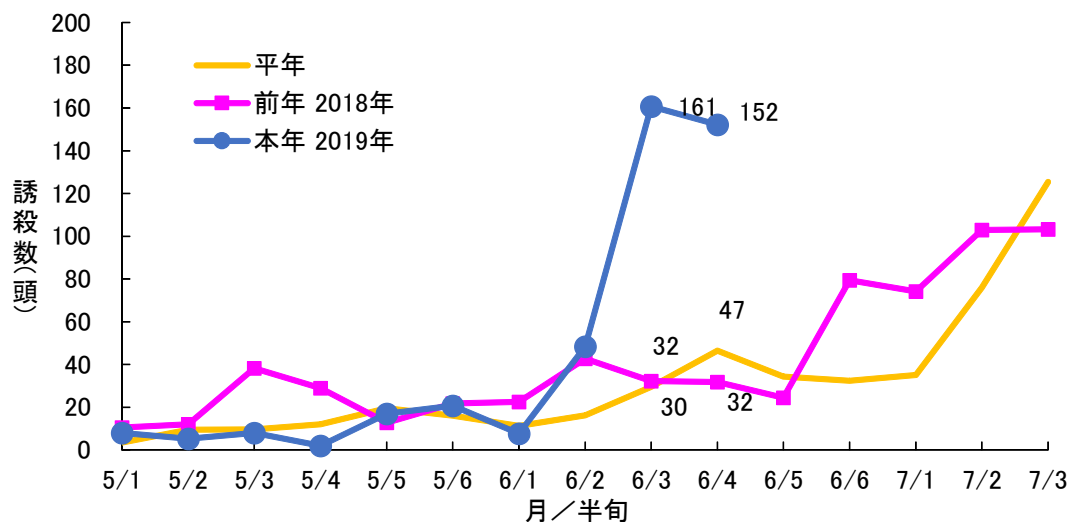


図1 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)
* 徳島市,鳴門市,松茂町の4地点平均

5. 生態・形態・被害作物等

(1) 生態

年間の発生回数は5～6回。幼虫の発生量は8～10月に最も多くなる。25℃での各生育ステージの期間は、卵が3日、幼虫が17日、蛹が9日で、1世代に要する期間は約30日程度である。

(2) 形態

卵：雌は数十～数百粒からなる卵塊を数回に分けて産卵し(1頭当たり平均1,000粒)、卵塊は黄白～灰白色の鱗毛で覆われる(図2)。

幼虫：幼虫の体色は若齢～中齢は淡緑色であるが、老齢幼虫は淡緑～褐色と個体変異が大きい(図3)。老齢幼虫の体長は30mm程度で、土中で蛹化する。

成虫：前翅長は12mm程度、前翅は灰褐～黄褐色で、比較的幅が狭く、前翅の中央部にくすんだオレンジ色の円形の斑紋がある(図4)。

(3) 寄主植物

広食性で、50種類以上の植物を加害する。

いも類

豆類：ダイズ、インゲンマメなど

野菜類：ネギ、キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ダイコン、レタス、ホウレンソウ、キュウリ、スイカ、トマト、ピーマン、イチゴなど

花き類：カーネーション、宿根カスミソウ、キク、トルコギキョウ、スターチスなど

(4) 被害状況

幼虫が葉裏から表皮を残してかじり、白変葉になる。孵化後の幼虫は集団で葉裏を食害するが、成長に伴い分散、食害量も増加し、被害が拡大する。



図2 シロイチモジヨトウの卵塊



図3 シロイチモジヨトウ幼虫



図4 シロイチモジヨトウ成虫

6. 防除法等

- (1) 幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、若齢幼虫期に防除する(表1)。
- (2) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに捕殺する。
- (3) ハスモンヨトウ等, その他の鱗翅目害虫も発生しているので, 同時防除する。
- (4) 防除等の詳細については, 徳島県植物防疫指針を参照するとともに, 薬剤の使用に当たっては, 必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表1 かんしょ(サツマイモ)でシロイチモジヨトウに登録のある農薬(登録内容:2019年6月21日現在)

農薬の名称	希釈倍数	使用時期	使用回数	系統	IRACコード※
アフーム乳剤	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内	マクロライド系	6

※IRACコード

殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のこと。本コードが異なる薬剤を使用することで,同一系統の薬剤の連用を防ぐことが可能である。